

第4次総合計画の検討の流れと考え方 (H28.10.28時点)

■ 背景

吹田市のあゆみ

- 全国モデルとなる千里NTの建設→NT再生へ
- 万博の開催
- 吹田操車場跡地→北大阪健康医療都市

人口

- 住宅開発により、近年、大幅な転入超過
H17 **35.4万人** ⇒ H27 **37.4万人**
(「国勢調査」より)

地域資源

- みどり豊かで調和のとれた都市空間、高質な生活環境
- 充実した医療・教育・研究環境と産業集積
- 歴史と文化、高い市民力 など

都市宣言

- 非核平和都市宣言
- 健康づくり都市宣言
- 安心安全の都市(まち)づくり宣言

社会潮流

- 少子高齢化の進展、産業・雇用構造の変化
- 高度経済成長期以降、一斉に整備した公共施設等の老朽化への対応
- 環境問題の深刻化や多発する地震や豪雨などの災害への関心の高まり
- ライフスタイルが多様化するなか、市民ニーズの多様化・高度化への対応 など

■ 第3次総合計画の検証結果

市民意識

- 多くの市民が優先して実施すべきと考えている分野
 - ・子どもを育てる環境
 - ・学校教育
 - ・地震や水害などに対する防災対策
 - 多くの市民が抱く「吹田市の望ましい将来像」
 - ・子育てのまち
 - ・福祉のまち
 - ・医療のまち
 - ・安心安全なまち
 - ・住宅環境が整ったまち
 - ・市民の暮らしを支える安定した基盤が整ったまち
- ⇒ “あらゆる世代が安心安全で暮らしやすいまち” が望まれている (「H26 市民意識調査」より)

各分野の主な課題

【1章】すべての人がいきいき輝くまちづくり	【2章】市民自治が育む自立のまちづくり	【3章】健康で安心して暮らせるまちづくり	【4章】個性がひかる学びと文化創造のまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ● 多様化する人権課題への対応や性的少数者への配慮 ● 女性活躍の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な主体との協働の推進 ● 広域的なコミュニティ施設のあり方等についての検討 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が発信する情報に満足している市民 H18 40.9% ⇒ H26 25.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活困窮者への支援 ● 「吹田版ネウボラ」の推進 ● 健康寿命延伸のための取組 ● 地域包括ケアシステムの構築 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何らかの社会参加をしている高齢者 H18 68.6% ⇒ H26 59.5% ・待機児童数 H18 42人 ⇒ H28 230人 	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語教育等、学校教育の質の向上 ● 老朽化した校舎等の大規模改造
【5章】環境を守り育てるまちづくり	【6章】安全で魅力的なまちづくり	【7章】活力あふれるにぎわいのあるまちづくり	基本計画推進のために
<ul style="list-style-type: none"> ● 環境保全に向けた市民、事業者との協働の推進 <p>大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染、騒音などの公害対策 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域における防災・防犯の取組の強化 ● 都市機能などの適切な立地誘導 ● インフラの効率的な更新を視野に入れた適正な維持管理 <p>大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震や風水害への対策 ・防犯対策 ・歩行者にとっての道路や交通の安全性 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者や近隣市と連携した魅力発信 ● 人が交流し、安心して買い物できる商業地づくりへの支援 ● 介護、保育等の人材不足分野への就職支援の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中長期の見通しを踏まえた持続可能で健全な財政運営 ● 公共施設の最適化 ● 行政評価及び新公会計制度の一層の活用

【参考】「吹田市第4次総合計画策定 課題検討集(案)」「市民を対象とした各種意識調査の分析報告書(案)」

■ 第4次総合計画のイメージ

1 基本構想

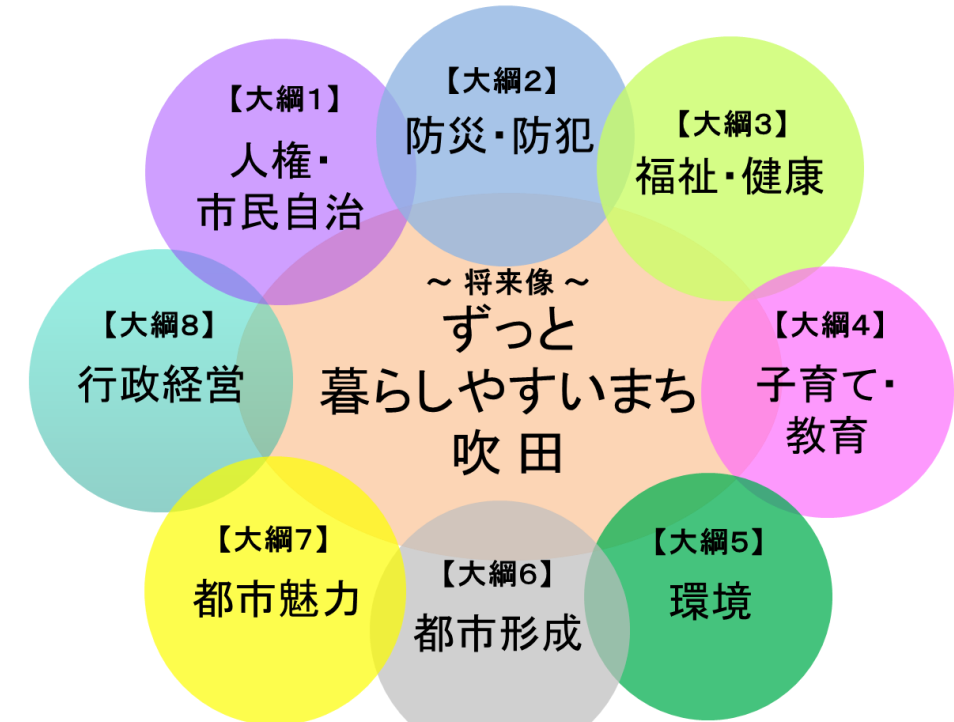
(1) 将来像

将来像に盛り込むべき視点

- 安心安全： 危機管理に関するだけでなく、平和、福祉、子育て、健康などのあらゆる面での安心
- 住みやすい(暮らしやすい)： 良好な環境、利便性、快適性など
- 持続可能： 少子高齢化の進展など時代が変化するなかでも、将来世代へ本市の魅力を受け継ぐ

(2) 施策の大綱

【施策の大綱】…将来像の実現に向け、各分野における今後の取組の方向性を示す。分野を超えた連携や市民、事業者など多様な主体と行政との協働を進める。



【参考】「吹田市第4次総合計画基本構想(素案) H28.10.28」

2 基本計画

- **施策体系**： 施策の大綱に沿って10年間で取り組むべき施策を示す。
 - ① 担当所管や関連する個別計画を明記
 - ② 個別計画も含めた一体的な進行管理を行うための指標を設定
 - ③ 中長期財政計画を踏まえ、取組の優先性や実現可能性などを考慮しながら、施策を検討
- **中長期財政計画**： 中長期的財政収支見通しを示す。
(公共施設最適化、少子高齢化に伴う扶助費の増加等の影響を想定)
- **地域別重点取組**： 地域別の特性や重点取組を示す。